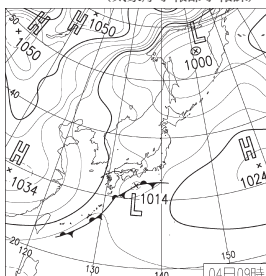


# 日々の天気図

— No. 155

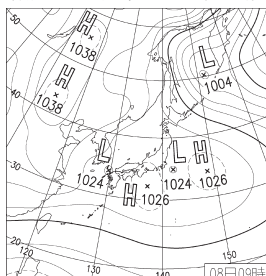
## 2014年12月

- ・月を通じて冬の気圧配置となる日が多く、日本海側中心に大雪に。
- ・2日、「東京」の気象観測地点が50年ぶりに移動。
- ・5日～6日、四国の山間部で大雪。集落の孤立、多数の車が立ち往生。
- ・17日、北海道樺室地方で顕著な高潮が発生し、浸水等の被害。  
(気象庁予報部予報課)



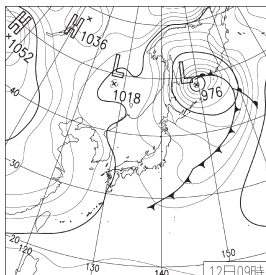
### 4日(木)停滞前線

南岸に停滞する前線により沖縄・奄美～東日本は雨。北日本日本海側は寒気による雨。沖縄県うるま市宮城島で最大瞬間風速33.6 m/s。福岡・背振山など西日本の4山で初冠雪。



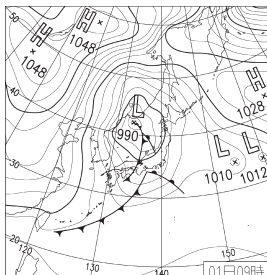
### 8日(月)名古屋初氷、水戸初雪

冬の気圧配置が一旦解消して風弱まる。日本海側は雨や雪の所が多い。最低気温は全国的に平年より低く、高松、彦根、津、名古屋で初氷。水戸で平年より23日早い初雪。



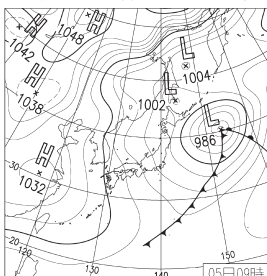
### 12日(金)冬の気圧配置

西～北日本の日本海側は雨や雪。青森で降雪量28 cm。最高気温は全国的に低く12月下旬～真冬の所が多い。福島県吾妻山で火山活動が活発化、噴火警戒レベルを1から2に。



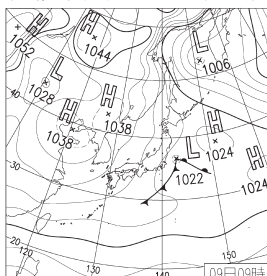
### 1日(月)西日本から寒気入る

低気圧が発達しながら日本海を北上し全国的に雨。西日本から次第に強い冬の気圧配置となり、日本海側を中心に暴風や大しけ。北海道白老町森野で12月1位の日降水量138.5 mm。



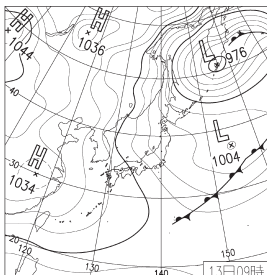
### 5日(金)寒波到来

冬の気圧配置で、沖縄・奄美と西～北日本の日本海側は雨や雪。太平洋側は晴れたが所々で雨や雪。広島、長野、福島、仙台で初雪。鹿児島、群馬・赤城山などで初冠雪。



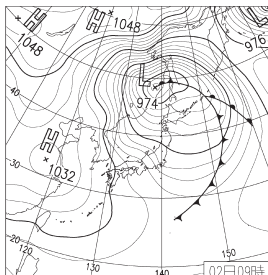
### 9日(火)寒さ一休み

弱い冬の気圧配置で、北日本は朝冷え込んだが西～東日本は日中に気温上昇。山陰以北の日本海側は雨や雪が残る。午後は関東沖の低気圧が発達し、東日本中心に季節風強まる。



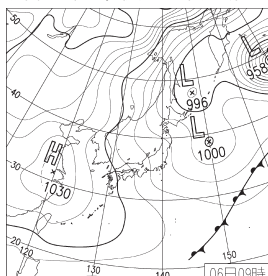
### 13日(土)太平洋側でも雪

北陸を中心に日本海側で雪。四国、近畿、東海等、太平洋側の一部も雪。岐阜県飛騨市河合で日降雪量69 cm。関東以外は日中も気温は低く、全国の1/4を超える239地点で真冬日。



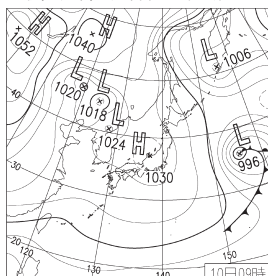
### 2日(火)北日本は大荒れ

強い冬の気圧配置で北日本や北陸を中心に暴風雪や高波。北海道八雲町熊石で最大風速19.6 m/s、史上1位。福岡、鳥取、新潟など8地点で初雪。滋賀・比良山、伊吹山で初冠雪。



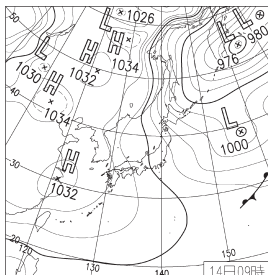
### 6日(土)日本海側で大雪

強い冬の気圧配置となり、西～北日本の日本海側を中心に大雪。新潟県津南で日降雪量69 cm。佐賀、神戸、名古屋で平年より14日早い初雪。彦根、岐阜、宇都宮でも初雪。



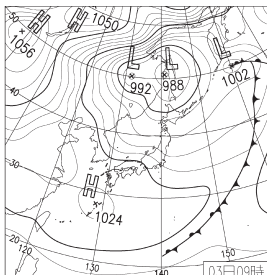
### 10日(水)高気圧通過

東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。北日本は冬の気圧配置で日本海側は雪。太平洋側は概ね晴れ。沖縄～西日本は気圧の谷接近で夕方以降雨に。福井、金沢で初氷。富山で初霜。



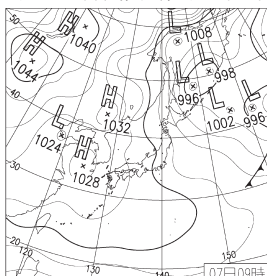
### 14日(日)寒波続く

寒気流入が続き、西～北日本の日本海側を中心に大雪。新潟県津南で日降雪量113 cm、史上1位を更新。最高気温は岐阜で平年比-8.8°Cの2.8°Cなど全国的に低い。横浜で初霜。



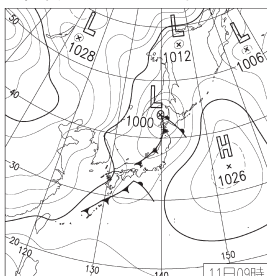
### 3日(水)冬の気圧配置続く

日中の気温は低く、全国の約10%、97地点で真冬日。北日本の沿岸部で暴風。北海道えりも岬で最大瞬間風速37 m/s。北海道名寄市大橋で日降雪量73 cm。宮崎、京都、熊谷で初氷。



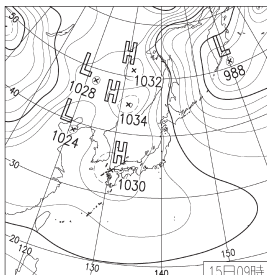
### 7日(日)西日本で初霜、初氷

最低気温は全国的に平年より低く、12月下旬～真冬並。北海道枝幸町歌登では、前日夜～未明にかけて気温が今季国内で初めて-20°Cを下回り、最低気温は-22.7°C。



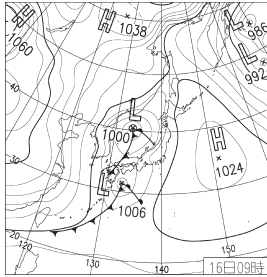
### 11日(木)神奈川県で震度4

低気圧や前線が日本付近を通過して全国的に雨や雪。低気圧が発達しながら通過した北海道は、所々で暴風雪や大しけとなり、稚内市宗谷岬で最大瞬間風速33.2 m/s。



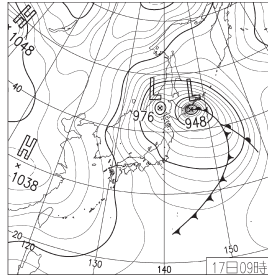
### 15日(月)冬型は一旦解消

高気圧が本州を通過し冬の気圧配置は解消。沖縄・奄美と西～北日本太平洋側は概ね晴れ。その他の地方は雨や雪。朝は冷え込み、福岡、大分、東京で初氷、大分で初霜。



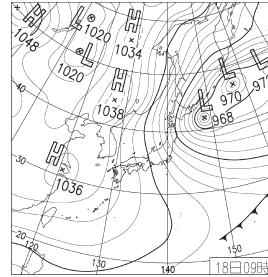
**16日(火)低気圧急発達**

低気圧が急速に発達しながら日本海と南岸を通り全国的に大荒れに、強い寒気流入、夜は広範囲で雪。徳島、高松、熊谷、前橋で初雪。東京都神津島空港で最大瞬間風速41.7 m/s。



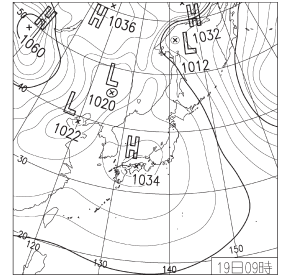
**17日(水)低気圧948hPaまで発達**

全国的に非常に強い風、大しけ。北海道根室市弥栄町で最大瞬間風速39.9 m/s、根室地方で高潮災害。福島県松枝枝で日降雪量97 cm、宮崎、大阪など西日本中心に10地点で初雪。



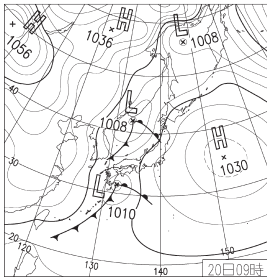
**18日(木)名古屋で積雪23 cm**

全国的に風が強く北海道はふぶき。日本海側に加え東海や東北太平洋側も雪。名古屋で最深積雪23 cm、津で初雪。全国の約8割の772地点で冬。東京は今季初の氷点下。



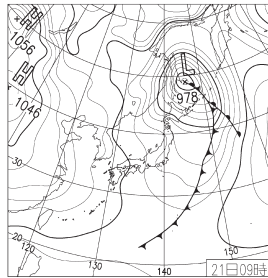
**19日(金)移動性高気圧**

冬型の気圧配置は解消、本州は移動性高気圧に覆われ広く晴れ。新潟県津南でも朝に雪は止んだが最深積雪は216 cmで平年の約5倍。西日本は朝冷え込み、高松で初霜。



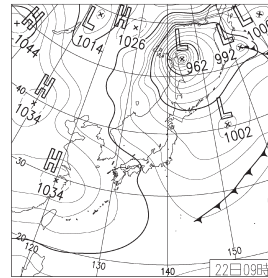
**20日(土)二つ玉低気圧**

南岸低気圧は夜に三陸沖へ、日本海低気圧は日本海北部へそれぞれ進み、これに伴う雨域が日本付近を東進。寒気は緩み、北海道は所々で最低気温が11月上旬並。福島県で震度4。



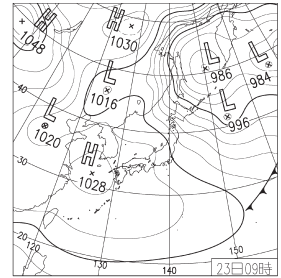
**21日(日)北日本大荒れ**

冬型の気圧配置が強まり北陸以北の日本海側は雪や雨、北日本は暴風雪。九州北部や四国、中国で一時雨。沖縄・奄美や九州南部で一時雨。北海道えりも岬で最大瞬間風速34.3 m/s。



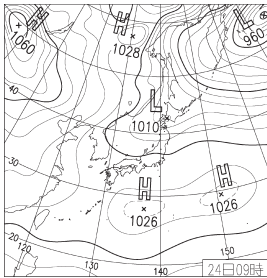
**22日(月)強い寒気に覆われる**

北陸～東北南部の所々で日降雪量が50 cm以上に。最高気温は関東を除いて全国的に平年より5℃程度低め。北海道は全観測地点で真冬日。銚子で平年より約1か月早い初雪。



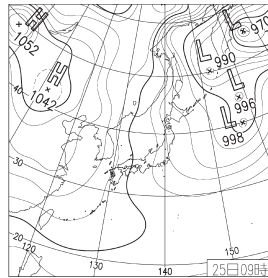
**23日(火)日本海側の雪収まる**

冬型の気圧配置が西から緩み太平洋側は広く晴れ、北陸以北の日本海側も雪が止んで次第に曇りや晴れに。北日本の沿岸部は強風が続き、北海道えりも岬で最大瞬間風速31.7 m/s。



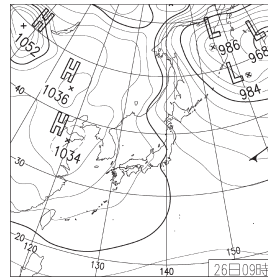
**24日(水)日本の南に高気圧**

沖縄・奄美は高気圧からの湿った南東風に伴う雨。北陸～北日本日本海側は北海道を通過した低気圧により雪や雨。山陰～北陸では上空に寒気が流入し夜に雷、和歌山で初霜。



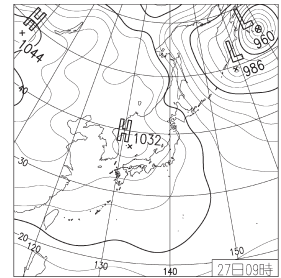
**25日(木)冬型の気圧配置**

西～北日本の日本海側は寒気により雪や雨の所が多い。先島諸島は湿った気流により夜に雨。その他の地方は概ね晴れ。横浜で、九州以北の観測地点では今季最も遅い初雪を観測。



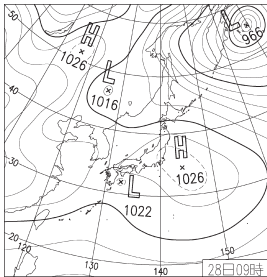
**26日(金)滋賀県で震度4**

北日本には上空約1500 mで-12℃以下の強い寒気が流入、北陸や北日本で大雪や暴風雪。西～東日本の太平洋側は概ね晴れ。秋田県湯沢市湯の岱で12月1位となる最深積雪146 cm。



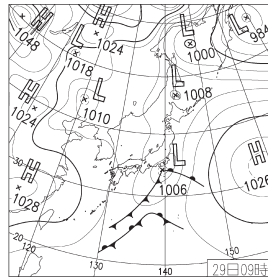
**27日(土)冬型緩む**

北陸～北日本日本海側の雪は次第に弱まり、晴れ間の出た所も。最低気温はほぼ全国で平年を下回り、北海道陸別では-25.8℃となり本年12月の全国最低を記録。福岡で初霜。



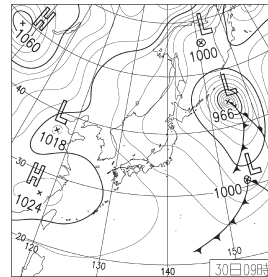
**28日(日)朝冷え込み**

朝は高気圧に覆われて広く晴れ、放射冷却により全国の7割652地点で冬。福島県4地点等本州の11地点で12月の最低気温1位を更新。低気圧の雨域が西～東日本で次第に拡大。



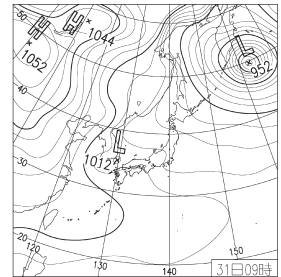
**29日(月)暖気入る**

2つの低気圧の影響により広範囲で雨や雪、西日本は日中晴れ。全国的に気温は高めで、特に北海道は最低気温が平年より10℃以上高い所も。東京都父島で47 mm/1 hの激しい雨。



**30日(火)北日本中心に寒気流入**

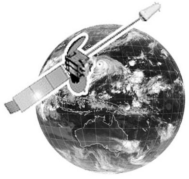
冬型の気圧配置となり、東～北日本の日本海側と東北南部の太平洋側は雨または雪。その他の地方は概ね晴れ。はじめ暖気が残った北海道では所々で最低気温が11月中旬並。



**31日(水)低気圧東進**

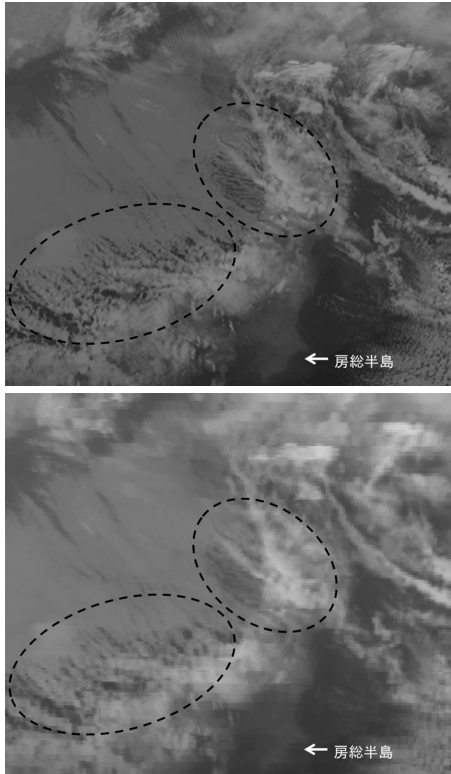
低気圧が発達しながら本州を東進。降水域は日本海側から次第に太平洋側にも拡がり、所々で雷も発生。低気圧の発達に伴って風が強まり、愛媛県宇和島で最大瞬間風速31.2 m/s。



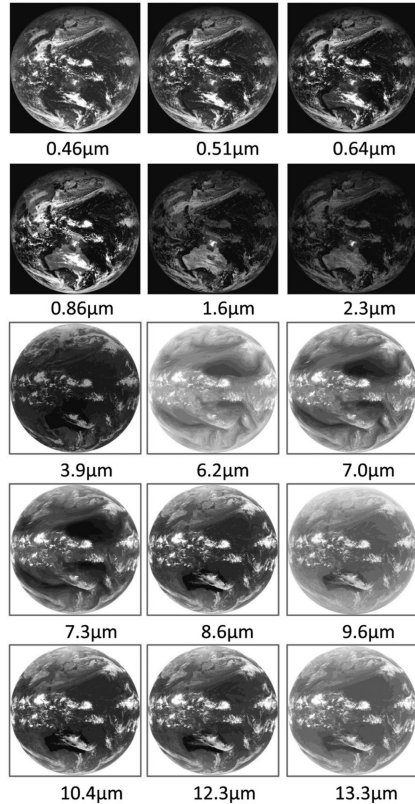


## 今月のひまわり画像—2014年12月

ひまわり 8号から初画像届く



第1図 2014年12月18日12時（日本時間）の東日本付近の赤外画像，上図はひまわり8号撮影，下図は同7号撮影。



第2図 ひまわり8号によって撮影された全球画像，撮影日時は第1図と同じ。

2014年10月7日に打ち上げられた、ひまわり8号（以下、8号）から画像が取得されたので紹介したい。第1図上図は同年12月18日12時（日本時間）、8号が初めて撮影した赤外画像である。8号は、ひまわり7号（以下、7号）から約8年ぶりに打ち上げられた新しい静止気象衛星で、その性能も大きく進化した。搭載された放射計は、可視域3波長、近赤外域3波長、赤外域10波長の合計16波長となり、世界の静止気象衛星で最先端の観測能力を持つ。また、赤道直下点における画像の解像度は、赤外画像で4 km から2 km、可視画像（0.64 μm 帯）で1 km から0.5 km に向上、さらに撮像間隔は、30分間隔から10分間隔に、日本付近については、2.5分毎の高頻度観測が行われる。

ここで7号の同時刻の赤外画像（第1図下図）と比

較してみたい。7号の赤外画像は、解像度が4 km のため、拡大すると全体的に焦点がぼけている印象を受ける。特に、日本海沿岸の破線内の筋状雲は、8号の赤外画像の方が極めて明瞭に見え、解像度の向上を実感できる。

このような観測機能強化により、今後は気象衛星による台風解析の精度向上や、今までは捉えるのが難しかった空間的・時間的スケールの小さな現象の把握も期待できる。また、可視域3波長の合成によりツールカラー画像が作成可能となったことから、黄砂などの現象も判別しやすくなると考えられている。8号は、2015年夏頃より7号から運用を引き継ぐ予定である。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）